

必要に応じて拡張を続ける小屋は
暮らす知恵と自由が現れたパートナー



奥に見える小屋から
徐々に拡張した吉田さん
の住まい。隣地には
キットログも建設予定だ

小さく暮らすことで
縛られない自由を獲得

サーフスポットとしても有名な千葉の九十九里浜。レイドバック感が漂うこのエリアの分譲地を少し入ったところに、吉田克也さんの小屋はある。小屋暮らしのブログを見たことがキッカケで、小屋を建てられる土地を不動産業者に相談して、この土地を見つけ、購入したのが27歳の時。テント生活から始めてまずは4畳ほどの小屋を建て、その暮らしはすでに5年目となった。

資材はホームセンターで入手できるものを多用。ツーバイ材で骨組みをつくり、OSB合板を張って外側にはポリカーボネートの波板を留め付け、内側にはボード状の断熱材を張った。基本的にはひとり、脚立を活用しながらつくり上げた。「DIYの経験はありませんが、なんとかなりましだね。6畳の広さはひとりですくには大変かなとビビって小さくしたのですが、次第に狭く感じるようになって……」と吉田さん。下駄箱をはじめとしてトイレ、シャワーブース、キッチン作業台、薪ストーブ、冷蔵庫と洗濯機置き場など——必要を感じるごとに小屋の手前側や脇に、単管で下屋を組んで張り出させてきた。これまで身につけてきた生活の知恵と工夫が、小屋とその周囲にはかたち



小屋の奥には、モニターを壁に固定。パソコン利用時は折りたたみのテーブルと椅子を広げて使用する



出入口の上には、ロフトを設置。片流れ屋根との間のスペースを物置とし、下も収納としている



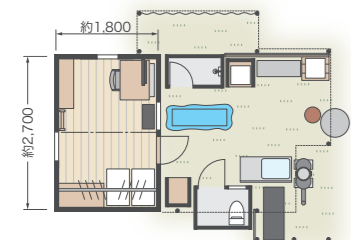
束石の上に土台を渡していたが、強度を増すためコンクリートを打設して束石をつなぎ合わせた



床近くの低い位置に設けたベントキャップ。上部の窓と合わせて、室内の自然換気が促される



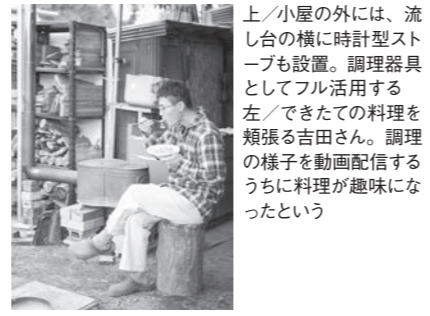
壁は当初は天井面と同じように断熱材が現しであったが、フローリング用の板材を譲り受けて張った



Tinyhouse Data
●用途=住居●所在地=千葉県山武郡九十九里町●延べ床面積=約??㎡●施工=セルフビルド●製作日数=???●竣工=20??年?月●構造=ツーバイフォー材によるパネル工法●基礎=コンクリート製束石●外部仕上げ【屋根=ポリカーボネート波板/外壁=ポリカーボネート波板/建具=木製ドア、木製シングルアクリル窓】●内部仕上げ【天井=押出し発泡ポリスチレン現し/壁=スギ/床=シートフローリング材/】●建設費用=約??万円

となって現れている。インフラは最初に電気を引き、井戸を掘って生活用水を確保。飲料や調理用の水は、近所のスーパーで買い物ついでに補給する。また、プロガーとして活動する吉田さんにとって、ネット環境は欠かせないが、コストパフォーマンスのよいモバイルWiFiで、動画配信もストレスなくできている。月々の固定費が抑えられることは、吉田さんの小屋暮らしの大きな

ポイントだ。家賃はかからないし、電気代も固定資産税も、一般家庭と比べれば微々たるもの。吉田さんは、年の半分ほどを旅行に充てるようになった。この夏は入手したスパーカーを相棒に、長野などを周遊してきた。そして現在は、解体されたミニログを譲り受け、隣地に建設するとことを目論んでいる。小屋暮らしで得た自由をさらに広げる、吉田さんの試みはまたまた続きそうだ。



上/小屋の外には、流し台の横に時計型ストープも設置。調理器具としてフル活用する左/できたての料理を頬張る吉田さん。調理の様子を動画配信するうちに料理が趣味になったという



右/生活用水は、業者に掘ってもらった井戸から汲み上げて使用。イオン交換樹脂を用いた自作のろ過装置で、雑成分を取り除いている 左/小屋の外には、シャワーユニットや冷蔵庫などが徐々に加わってきた